



四條畷市議会議員

ながはた

長畑ひろのり News



発行：2009.12.01

- 市政報告 12月号 -

vol.030

ご意見は次のeメールアドレスへ
公式HP & ブログは次のURLへ

sky@nagahata.jp

phone：072-878-3205

http://nagahata.jp

fax：072-877-1194

こんにちは、市政報告です

今号は、先月に行われた平成20年度決算特別委員会での私の質問の一部より、答弁を含め報告させていただきます。

「決算特別委員会」より

☆ 一般会計の総括（決算審査意見書より一部抜粋） ☆

一般会計の決算規模は、歳入が193億4,048万5千円で前年度に比べ33億4,007万8千円、20.9%の増、歳出が191億2,148万3千円で27億5,670万3千円、16.9%の増となり、歳入歳出ともに前年度を上回ることとなった。

歳入歳出差引額（形式収支）は、2億1,900万2千円の黒字であった。これから翌年度へ繰越すべき財源3,413万9千円を差し引いた実質収支は1億8,486万3千円の黒字となり、平成9年度から平成19年度まで11年続けての赤字であったものが、12年ぶりに黒字に転換している。

・・・特別土地保有税について、平成20年度中に岡山東地区の大規模住宅開発が中止されたため、平成元年度から平成14年度までの徴収猶予分25億3,166万9千円が本年度において徴収されたことによって、本市の市税収入は前年度と比較すると36.7%の大幅な増収となった。・・・

以上が総括ですが、12年ぶりに黒字になった主な理由は特別土地保有税によるものであり、市の財政が厳しいには変わりありません。

【Q】本市の観光行政の進捗状況と今後の見通しは？

【A】これまでの経過と今後のスケジュールは以下の通り。

| | | |
|-------|--------|----------------|
| 平成19年 | 4月 | 産業労働観光課を設置 |
| 平成21年 | 6月～12月 | 庁内検討委員会設置、検討 |
| 平成22年 | 2月～6月 | 観光研究グループ設置、検討 |
| 平成22年 | 6月 | 観光協議会設置 |
| 平成22年 | 7月～9月 | 観光協議会での事業計画を策定 |
| 平成22年 | 10月～ | 計画に基づいた事業を実施 |

【Q】全小学校の校門にある見張り番は今後どうするのか？

【A】平成17年度から3年間だけ府から補助金が出る予定が、3年間延長して今も続いているのが現状。その補助金の

額は1校につき80万円で7校あるので合計560万円。

しかし、この補助金も来年度を最後に打ち切られる予定となっている。そこで、本市として府の補助金がなくても維持していくのかを検討中だが、中学校と同様に門を遠隔操作で開閉できるオートロックの設備も視野に入れて考えている。

【Q】放課後子ども教室は来年度全校で実施するのか？

【A】本年度、くすのき小学校をモデル校として夏期休業日も含め全日実施しているが、アンケートによる高いニーズのわりに参加率は相反しているのが現状。今後、運営委員会で来年度へ向けて結論を出していくが、全小学校に対して全日実施は困難と考える。

また、その結果、ふれあい教室の人数も減少しないため、国の方針で見直しが必要となる。来年度以降、ふれあい教室の児童数が70名を超える場合、国からの補助金が出なくなるため、四條畷東小と南小以外の80名定員で運営していた5校の小学校においては、ふれあい教室を分割しなければならない。当然、工事が伴うので、その分割にかかる費用については12月議会の補正予算で計上する予定にしている。

【Q】来年度、府立高校の定員数が約1千人増と聞かすが、受験生は3千数百人増えるのに、まかないきれないのは明らか。今までの公立と私立との定員割合7対3から言えば、もっと大阪府教育委員会に対し要望していかなければと考えるが。

※この質問に対して、当日市教委から答弁を頂きましたが新しい情報として府教委が11月20日に公表したものを下記に記します。

来春公立中学校の卒業生は前年度より3,557人多い7万4,370人。そのうち府内進学が見込まれる6万7,030人を、公立7私立3の割合で分けた上に公立が960人を上乗せする。普通科で3,600人の増だが、工業系等で減少する学校もあり、結果3,440人の増となる。

2学区の全日制普通科の学校別では、定員40人の学級が1組増となるのは、大手前・旭・茨田・港・泉尾・大正・四條畷・寝屋川・西寝屋川・枚方・長尾・香里丘・守口東・門真西・野崎の15校となり、2組増となるのは、牧野・枚方津田・交野の3校となる。

府教育委員会は20日、10年多い4万8,640人を募集の公立高校の募集計画を発する。

公立高募集 3440人増 府10年度計画 教委発表

「議会運営委員会 行政視察」について

11月17, 18日に議会運営委員会（通常は議運と略して言います）にて行政視察を行いました。

まず、議会運営委員会とは、議会運営がスムーズに行えるようにする委員会で、議案の説明を行政側から受けたり委員会議案や請願などをどこの常任委員会に振り分けるか（付託）を審査したりします。構成メンバーは、各会派の代表者（幹事長）5名に最大会派から1名追加の合計6名です。

行き先は「開かれた議会をめざす会」が議会活性化等に関する調査結果を2008年12月に公表したのですが、そこで1位の伊賀市、60位の志摩市、93位の四日市市の三重県内3市に伺いました。この調査の数字は全国806ある市区議会を対象に回答を頂いた764市区議会の順位で、ちなみに四條畷市は287位と開かれた議会とは言えません。

・四日市市役所にて・・・

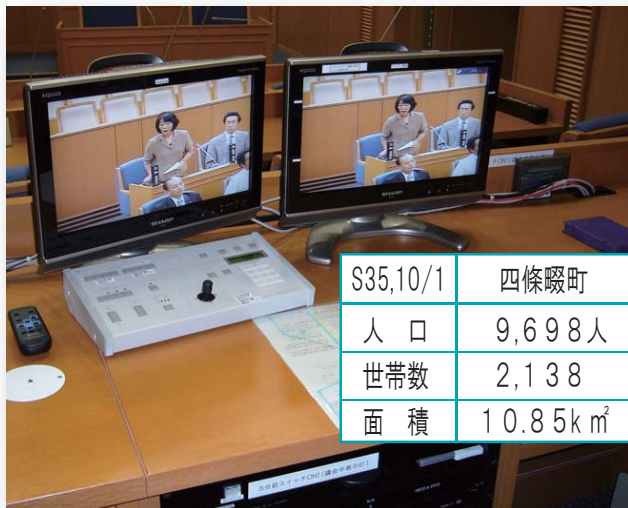
ケーブルテレビにて、代表質問と一般質問の模様を生中継と録画による再放送を実施。インターネット配信も行っている。視察箇所：議場視察、ケーブルテレビ用の機材確認と操作方法及び費用。また、四日市市で実施した5,000人アンケートの議会中継を視聴した市民の反響について等。

・志摩市役所にて・・・

ケーブルテレビにて、一般質問の模様を録画にて放送を実施。視察箇所：議場視察、ケーブルテレビ用の機材確認と操作方法及び費用。また、市民や議員の反応、今後のインターネット配信を含む展開について等。

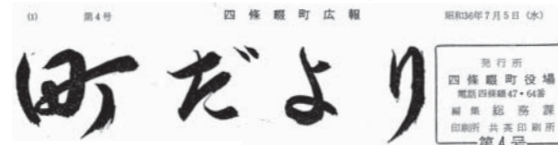
・伊賀市役所にて・・・

伊賀市議会基本条例を制定し、開かれた議会を実践中。視察箇所：基本条例の内容と条例制定までの経緯。条例の各特徴（議会報告会・反問権付与・政策討論会・出前講座等）について。住民自治協議会と区長制度との関係について等。



| S35,10/1 | 四條畷町 | 田原村 | 合計 |
|----------|---------|--------|---------|
| 人口 | 9,698人 | 1,081人 | 10,779人 |
| 世帯数 | 2,138 | 202 | 2,340 |
| 面積 | 10.85k㎡ | 8.05k㎡ | 18.90k㎡ |

「四條畷町と田原村合併」について



昭和36年6月5日発行の四條畷町広報誌「町だより」第3号に、四條畷町と田原村の合併の記事が掲載されています。そこには、5月19日に両町村合併委員が合併協定事項について話し合いをし、成立したので、合併協定書に調印したとあります。その協定した事項内容の一部です。

- ・合併の形式は田原村を廃して、四條畷町に編入。
- ・四條畷町役場が本庁となり田原村役場は出張所。
- ・田原村村長は、四條畷町第二助役とし、田原村収入役は四條畷町の一般職員とする。
- ・田原村中学校は存続。・教育委員は欠員を田原村より選任。
- ・交通機関の充実には近鉄バス及び京阪バスの運行回数を増すよう促進運動を行う。

次の昭和36年7月5日発行の第4号には、四條畷町と田原村の合併当時の記事が掲載されました（画像参照）。

四條畷市史第一巻758ページにも合併の話が載っています。内容は、昭和32年3月30日、大阪府知事は大東市・四條畷町・田原村の合併勧告をするが不可能と判断し、昭和34年3月20日、四條畷町と田原村の合併勧告を行った。

この件で、私が調査した内容も少し加え記します。

同時期に研究用原子炉建設が頓挫した事（前号に書きました）で、大阪府に対し負い目を感じていた四條畷町は合併に前向きに取り組めます。しかし、田原村の中では意見がわかれていました。上田原地区は大東市と四條畷町、もしくは大東市のみとの合併。下田原地区は四條畷町との合併を望んでいたのです。結果、昭和36年6月25日に四條畷町と合併する事になりますが、上田原地区の希望もあり後に大東市と合併する話もあったそうです。

市史&町広報誌より、両町村の規模を左に記しました。合併後、面積は相当増えましたが、人口は余り増えていません。

しかし、その後人口はどんどん増え、9年後の昭和45年7月1日府内30番目の市として市制を施行します。当時の人口は35,833人です。